



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



### 歯学部の一層の評価向上に向けて

歯学部長 宮崎 隆

昨年度は理事会の大学活性化推進委員会内に設置された「歯学部評価向上プロジェクト」で、近い将来の歯学部評価向上を目指していくつかの具体的な提案がなされました。それに基づき、この4月からいよいよ歯科医学教育推進室と口腔ケアセンターが活動を開始



しました。また平成14年度からスタートした新カリキュラムが完成年度を迎え、3月には初めての卒業生を送り出しました。残念なことに今年の歯科医師国家試験は大変に厳しい結果であり、学生、保護者をはじめ関係者に申し訳なく思っています。新6年生の国家試験対策については、既に教授会で協議し、今年度の方針を学生に提示しています。学生には動揺することなく大学の方針についてきて欲しいと思います。一方で、昨年度は歯学部内にカリキュラム改訂プロジェクトを設置し、新2年生から一部カリキュラムの変更をしました。また、今年は大学活性化推進委員会内に「歯学教育検証プロジェクト」を立ち上げたので、学長を委員長に医学部長ほか全学的なメンバーで、平成14年度から進めてきた歯学部の新カリキュラムを検証する予定です。本学および本学部の教育目標が達成できるように、さらなる教育改革を進めていきます。

歯学部の評価向上の柱の一つに教員と学生レベルの国際交流の推進があります。現在、交流校のチュービンゲン大学と上海交通大学から教員が長期滞在し、本学で研修を受けています。また例年より多くの6年生が選択実習で、アデレード大学、南カリフォルニア大学、天津医科大学、大連医科大学を訪問しました。国際交流推進のツールとして、歯学部英文広報誌第1号を昨年度末に発行しましたので、広く活用して下さい。

歯科病院は一昨年度に続き、昨年度も医療収入が大幅に増収となりました。岡野病院長はじめ関係者に篤く感謝申し上げます。今後は評価向上のため、専門診療科のさらなる充実、地域連携の一層の推進、医学部附属7病院との連携を推進します。口腔ケアセンターの活動とともに、医療系総合大学の環境の中で高齢患者を始め全ての患者に対して安全・安心の歯科医療が実践できるように体制を強化します。

### 昭和大学口腔ケアセンター長に就任して

口腔衛生学教室 向井 美恵

昭和大学口腔ケアセンターは本年4月に設立されました。医系総合大学の本大学が学部を超えた連携を基盤にして、8つの附属病院の患者様や社会に貢献できる先鞭となるチーム医療の臨床と教育の下記の具現化を目指しています。



1. チーム医療への貢献: 昭和大学8病院の入院患者様の口腔ケア(器質的ケア, 機能的ケア)の徹底を図ることで誤嚥性肺炎や窒息事故等の発生を防止し、その後の医療を円滑に行うことに貢献するとともに、摂食・嚥下障害や口臭などに対する専門的な医療対応を医師、看護師、薬剤師等の協力を得て行います。当面は急性期病棟、手術予定患者の術前術後、人工呼吸器患者のVAP(人工呼吸器関連肺炎)予防等を予定しています。また慢性期疾患の病棟では口腔ケアと同時に摂食機能療法をプラスして早期の経口摂取を目指します。
2. 教育への貢献: 医系総合大学の本大学への教育貢献として、病棟における口腔ケア等が軌道にのった段階で、本大学の学生及び臨床研修医等の実習・研修に資するものとしていく予定です。
3. 地域医療への貢献: 口腔ケアセンターが入院中の患者様のQOLの向上に続いて地域連携パスによって退院後の生活の場(在宅、施設など)における口腔の医療面からの地域医療に貢献していきます。

オーラルフィジシャンとしての臨床を担い、社会で活躍できる歯科医師の養成のための教育・臨床の場となるようセンターを運営していく所存です。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

### 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 6月 7日(土): PBLファシリテータ養成ワークショップ
- 6月14日(土): 昭和大学白菊の集い
- 6月21日(土): 父兄会総会
- 6月21日(土): 臨床研修採用説明会
- 6月28日(土): 昭和歯学会総会

## 須田名誉教授 日本学士院会員就任 祝賀会

口腔生化学教室 上條 竜太郎



本学名誉教授、須田立雄先生は、平成19年12月12日、日本学士院会員として選出されました。これを祝して平成20年3月29日、ホテル オークラ平安の間にて記念講演会と祝賀会が開催されました。

記念講演会では須田先生が「活性型ビタミンDの発見がもたらしたものと題して、活性型ビタミンD研究の足跡を振り返ると共に今後の展望についてご講演されました。また、祝賀会は各方面より多くのご来賓をお迎えし、出席者合計約300名を数える盛会でした。

日本学士院は、我が国の教育・学術の進歩発展を図るために設立され、その会員は学術上功績顕著な科学者からなり、現在の会員数は138名です。学士院会員に就任することは、科学者として非常に名誉であり、本学歯学部においては、初代の岡田正弘歯学部長が薬理学の専門家として学士院会員でありましたから、僅か30年の歯学部の歴史の中でお二人の歯学部長が学士院会員に選出されたこととなります。須田先生がご所属になられる2部第7分科会(医学・歯学・薬学)は定員20名で、学士院の歴史を通じて歯学専門の会員は長尾 優先生、総山孝雄先生のお二人だけであり、須田先生で3人目となります。



須田先生は40年以上にわたり、生体の最も基本的なカルシウム代謝因子であるビタミン D の研究に取り組まれ、特に、ご自身が考案された活性型ビタミンDの合成誘導体(1 $\alpha$ -ヒドロキシビタミンD<sub>3</sub>)は、骨粗鬆症患者の基本的な治療薬となっており、現在少なくとも百万人の骨粗鬆症患者が毎日服用しています。また、骨吸収の主役を演じる破骨細胞の形成には、骨形成に関与する骨芽細胞と破骨細胞前駆細胞との間に細胞間接着を介して破骨細胞分化因子(ODF)が関与することを分子レベルで証明しました。これら一連の研究が、基礎生命科学と医学・歯学の進展に大きく貢献するものとして、今回の選出となりました。須田先生のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 英文広報誌 Newsletter 発行

広報委員長 五十嵐 武

歯学部広報委員会では「昭和大学歯学部の国際交流を主とした活動内容を海外向けに情報発信」する広報誌を作成するために、平成19年度初めに英文広報委員会を立上げ、その作成に取り組んできました。

英文広報誌の名称は英文広報委員でリストアップした20候補から4候補に絞り、最終的に歯学部教授会の議を経て「Newsletter」に決まりました。また、創刊号の表紙には歯学部の今後の発展をイメージして、「湖から望む富士山からの日の出」の写真を採用しました。本誌の内容には、昭和大学国際教育シンポジウムの開催、歯学部PBL教育の紹介、海外学部間提携校の紹介、歯学部学生の交換留学体験記、海外提携校からの留学生紹介、教員の海外留学体験記、海外からの大学院生・研修生の募集などを掲載しています。



Newsletter 創刊号は海外学部間提携校や国内の4大学交流校を始め、昭和大学医・歯・薬・保健医療学部と富士吉田教育部、さらには附属病院などに配布すると共に、ホームページ [http://www10.showa-u.ac.jp/~dent/dent\\_letter.html](http://www10.showa-u.ac.jp/~dent/dent_letter.html) に掲載いたしましたので、是非ご覧いただければと思います。また、創刊号の別刷りは国際交流センターに保管をお願いいたしましたので、是非、海外交流などの際にはお問い合わせいただき、ご活用いただければと思います。

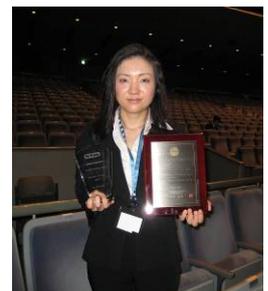
英文広報委員：宮崎 隆(歯学部長)、五十嵐 武(広報委員長)、Suzanne Knowlton、堀田康弘、松田幸子、野中直子、坂井信裕、前田昌子

## 受賞

広報委員長 五十嵐 武

小出 容子(歯周病学教室 員外助教)

平成20年4月25~26日、さいたま市大宮ソニックシティで開催された第51回春季日本歯周病学会学術大会において、2007年度日本歯周病学会奨励賞ならびにHu-Friedy Awardを受賞されました。



論文名「Two distinct stem cell lineages in murine bone marrow. (Stem Cells 25:1213-21, 2007)」

## D6選択実習を体験して(浜松医科大学 歯科口腔外科) 歯学部6年 清川 麻里絵

浜松医科大学病院の口腔外科を志望したのは、私の地元であることと口腔外科領域に興味があったからです。

実習内容は病棟・外来見学、初診患者の問診、手術での介者などが中心でした。最終日は緊急手術にも参加させて頂き、麻酔科などの他科との連携や夜間で人手が不足した状態での手術の大変さを体験することができました。また、論文を和訳しレポートにまとめ発表する抄読会にも参加し、病棟や外来だけが学ぶ場所ではないと再認識しました。地方の特定機能病院という

こともあり市外からなど遠方の患者さんも多く、口腔領域の悪性腫瘍や異物除去、外傷など症例は様々で学ぶことがたくさんありました。



2週間という短い期間でしたが、曜日ごとに担当の先生を決めていただき充実した実習でした。何を中心に学びたいのかを事前に聞いて下さったこともあり、自分の興味を持っている分野について知識を深めることができました。異なる環境で初日は戸惑いましたが、先生方も優しく診療中もいろいろ教えて頂き貴重な体験となりました。最後になりましたが、学内外の先生方に篤く御礼申し上げます。

## D6選択実習を体験して(アデレード大 学, オーストラリア) 歯学部6年 前田 美佳

今回選択実習先として訪れたアデレード大学で過ごした日々は、私の想像を遥かに超える素晴らしいものでした。毎日が感動の連続で、大変有意義な充実した日々を過ごすことができました。



アデレード大学は学ぶこと、吸収することの宝庫でした。臨床の場を見学させていただき、学生のラボでの実習、講義やPBLにも参加させていただきました。何よりも驚いた事は、カリキュラムの違いです。アデレード大学では3年生の時から一人一人患者を担当し、問診を取り治療計画を立てた上で患者さんにしっ

かり説明をし、同意をとります。そして自らの手を動かし治療を行い、その後のカルテの記載まで全てを学生が行っていました。私よりも年下の学生達が一生懸命治療に臨んでいるその姿に刺激され、私のモチベーションを上げる大きなきっかけとなりました。またどの科を訪れても出会う先生方、学生さん達が本当に良くしてくださったことに加え、沢山の友達も出来、交流を深める事が出来たのも私にとってかけがえない素晴らしい思い出となりました。

今回このような素晴らしい機会を作ってくださった多くの先生方に心から感謝いたします。今後も本学の多くの歯学生にこのような貴重な経験が与えられるよう祈っています。

## D6選択実習を体験して(南カリフォルニア大学, アメリカ) 歯学部6年 鈴木 芳恵

私は5月7日から23日まで、アメリカのLAにあるUSC(南カリフォルニア大学)の歯学部留学させていただきました。USCは私立の大学で、とても歴史のある学校です。私の留学の目的は、USCの方々との交流と、日本との歯科事情の違いを知ることで視野の広い歯科医師を目指すことです。



留学の期間中、希望に沿ったスケジュールを組んでいただいたので毎日がとても充実していました。主に午前中は、USCの授業の主体であるPBL、午後は3・4年生のクリニックの見学をしました。大学病院では安く治療が受けられるため、低所得者など多くの方が来院しています。また、多くの日本人のスタッフが働いているCCMBという研究施設の見学もしました。他にChildren's Dental CenterやMobile Clinicなどの地域医療の見学にも行きました。

日本とは違い新鮮で衝撃を受けることも多く、非常にいい経験になりました。そしてこちらで働いている日本人歯科医師の方々を含め、様々な方たちと出会い交流できた事は私にとっても大きな影響を与え、将来についても非常に考えさせられました。

実習だけでなく、青い空の下、学生とビーチでBBQをしたり、Shoppingや、LAの様々な所に連れて行ってもらい、共に飲んで語って笑いあった日々は一生忘れられない大切な思い出です。忘れてくても忘れられない沢山の思い出と、落としたくても落とせない沢山の脂肪をこのアメリカで作ることができました。このような貴重な経験をさせていただいた先生方、USCでお世話になった方々にこの場をお借りして深く感謝致します。Thank You.

## D6 選択実習を経験して（デンマーク・コペンハーゲン大学） 歯学部6年 山本 麻衣子

今回、私は選択実習でデンマークにあるコペンハーゲン大学に行かせて頂きました。私の小さい頃からの夢であった“福祉先進国である北欧の医療を見てみたい”という思いから始まり、歯周病科山本教授やコペンハーゲン大学口腔生理学教室Merete Bakke准教授を始め、多くの方々のお力添えのお陰で、今回の実習を行うことが出来ました。

コペンハーゲン大学では、インプラント科・補綴科・口腔リハビリテーション科・顎関節症科・顎顔面の筋電図測定などの診療を主に見学させて頂きました。コペンハーゲン大学は5年制で2年生から病院実習を行います。病院実習では、低学年では4人程度のグループ診療、高学年では単独で行う診療という程度の差はありますが、どの学年どの科も、Dr監督のもと、問診から治療計画立案、診療、カルテ作成に至るまで学生主体で行っています。日本でのほぼ見学のみという病院実習スタイルに慣れていた私は非常に驚きました。逆にコペンハーゲン大学の学生は見学がほとんどという日本の病院実習スタイルに驚いていました。

コペンハーゲン大学での選択実習では様々なことを学び、日本国内では感じる事が無かった日本や医療のことなど色々なことを感じる事ができました。今回の選択実習で得た経験、知識を生かして、今後の飛躍に繋げていきたいと思えます。

素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 教室紹介 口腔衛生学教室

口腔衛生学教室 向井 美恵

当教室は、1号館の5階の奥にあります。教員6名、大学院7名、教室秘書1名の基礎系の教室です。

口腔衛生学という学問は、単に口腔を綺麗にするという意味だけではなく、「衛＝まもる」という意味からもわかりますように、口腔を通じて全身の健康を衛る、という広い学問になります。

開設当初は、衛生・公衆衛生を主な研究テーマにしておりましたが、前教授の金子芳洋先生が摂食・嚥下機能とその障害について研究されたのを皮切りに

して、現在も当教室の研究のメインテーマは摂食・嚥下機能についてですが、三次元造形装置や三次元超音波診断装置、また NIRS などの新たな研究手法が追加されたり、また中枢神経系の発達の解明のために動物実験を行ったりと、積極的に研究を行っており、また口腔リハビリテーション科の診療スタッフとして臨床面でも研鑽を積んでおります。

また、口腔衛生学という教室は全国歯科大学では、予防歯科として臨床の教室であることが多いのですが、これまで基礎の教室でした。この度、口腔ケアセンターの設立により、また当教室の新たな一步を踏み出そうとしております。口腔ケアとは、単に口腔をきれいにするだけではなく、口腔の機能的なサポートも必要とします。当教室のスタッフが、これまで研鑽した口腔ケアの技術を今度は昭和大学8病院で、お手伝いができることを教室員一同楽しみにしております。

研究・臨床とともに教育にも力を入れておりますが、多くの教室・学生さんとも交流しておりますので、一度教室に足を運んでいただけたらと思います。



## 診療統計(平成20年4月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,265	690.6	801.6	712.4
入院患者	352	11.7	12.9	13.3

## 編集後記

口腔衛生学教室 弘中 祥司

みなさまは良いGWを過ごされたでしょうか。これから6月にかけて梅雨の時期に突入します。沖縄は先日梅雨入りしたとか。

とにかく最近、地球温暖化や中国の地震など、自然災害の話題がとても多いような気がします。梅雨も日本特有の季節なので、楽しむくらいの心の余裕が欲しいところです。自然との共生も我々日本人の得意な分野ではないでしょうか。

グローバルな大学を目指している昭和大学では、患者さんの治療だけではなく、みんなの住むこの地球も治せるようにしたいものです。